

国営土地改良事業地区調査「河北潟周辺地区」 ～優良営農事例～

河北潟周辺地区では数多くの優良営農事例が知られており、今回、干拓地内の施設園芸として「河北潟こまつな」の安定出荷や作付拡大に取り組んでいる河北潟生産出荷組合施設園芸部会（以下、「部会」）と部会のキーマンの一人である笠間勝弘部会長を紹介します。

1. 部会の概要

従来、河北潟生産出荷組合には葉根菜部会、果樹部会等があり、それぞれの品目で営農が行われていましたが、平成7年、既存の部会には含まれないコマツナの施設栽培を行いたい3戸の農家によって本部会が設立されました。その後、現在に至るまで、部会によるコマツナの生産者や作付面積、生産額が順調に増加を続けています。

- (1) 現在、部会は17名で約33haの作付面積、約1.4億円の生産額で、全員がエコファーマーの認定を受けており、また、収穫したコマツナを全量集荷し、右の「河北潟こまつな」の入った共通パッケージで出荷しています。
- (2) なお、笠間部会長は、以下写真のとおり、ご家族と複数の従業員でハウス57棟を経営し、高品質のおいしい河北潟こまつなの安定出荷を目指しています。



2. 近年の部会に対する表彰事例

- (1) 平成27年、コマツナ産地育成やいしかわ耕稼塾修了生の受け入れや近隣市町の保育園での食育講座や収穫体験等の実践が認められ、「いしかわ農業振興協議会地域農業振興共励会優秀賞」を受賞しています。
- (2) 平成28年、新規就農者のマンツーマン指導などの担い手育成方式により部会員の増加によって、県内一のコマツナ産地となり、販売額1億2千万円を超える経営を実現したことにより、「日本農業賞・集団組織の部石川県代表」に選出されています。

3. 最後に

笠間部会長にとって、部会とは、全量出荷により安定経営が図られていることや相談できる仲間や先輩がいてくれる大切な存在とのことでした。

今後、「河北潟こまつな」は、部会によって益々の発展が見込まれます。



※写真は笠間部会長のハウスで撮影したものです。